

第6章 幼稚園教育・学校教育

1 幼稚園教育・学校教育の振興と充実

グローバルな視点で主体的に学び、社会に発信する子ども	
英語教育	<p>① 小学校の外国語教育において積極的にコミュニケーションを図る態度を育成し、言語や文化に対する理解を深めるために英語アシスタントを3～6年生の各学級へ年間35時間派遣する。</p> <p>② 中学校の外国語教育において、「聞く・話す・読む・書く」を総合的に行う学習活動の充実を図るため、外国語指導助手5名を派遣する。</p>
ICTを活用した教育	<p>① 整備されたICT機器を効果的に活用することで学習活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。</p> <p>② 各校に配置されたICT支援員を活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を目指す。</p>
アクティブ・ラーニングを導入した教育活動	<p>① 児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実践できるよう、言語活動やグループ学習などを取り入れた授業改善に取り組み、学習指導要領で求められている力を育成する。</p> <p>② 各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るなど、カリキュラム・マネジメントを推進する。</p>
郷土教育	<p>① 郷土の豊かな自然、歴史、文化を学ぶため、地域と連携し、地域の人材や文化施設を活用した郷土教育を推進する。</p>
環境教育	<p>① 体験的な活動の推進を通して、環境問題を理解するとともに、環境の保全に配慮した主体的な行動ができる児童生徒を育成する。</p> <p>② 「学校環境デー」の取組を通して、地域の実情に応じた環境教育を推進する。</p>

基礎・基本を身に付け、自ら表現する子ども	
キャリア教育	<p>① 地域社会の協力を得て、各事業所等で様々な職場体験を推進するとともに、事前事後学習を教育課程に位置付け、教科を横断した取組を展開することで、地域社会の一員としての自覚を高め、キャリア教育の更なる充実を図る。(職場体験学習については、新型コロナウイルス感染症防止対策のため今年度は中止。職場体験学習の意義を踏まえ、各校において代替の学習を行う。)</p> <p>② 学術・芸術・文化等の専門家など、その道一筋に生きてこられた方々を、学校・幼稚園に派遣し、子どもたちが「夢と希望」をもち、生き方を考えたり学んだりすることができる「すずか夢工房～達人に学ぶ～」事業を教育課程に位置付けて実施する。</p> <p>③ JFA こころのプロジェクト「夢の教室」事業を活用し、スポーツの分野で活躍する人材による出前講座を実施することで、「夢をもつことやそれに向かって努力することの大切さ」を学ぶ機会とする。</p> <p>④ 地域への関心と愛着を持って、将来、地域社会で活躍しようとする意欲のある生徒を育成するために、鈴鹿商工会議所と連携し、中学生企業見学会を実施する。</p>

	<p>(今年度は未定)</p> <p>⑤ キャリア・パスポートを活用し、児童生徒が学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことを通して、一人一人のキャリア形成と自己実現を図る。</p>
教科学習における授業改善	<p>① 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果を分析し、分析結果からわかる本市児童生徒の弱みを克服するとともに、学習指導要領で求められる力を身につけさせるための授業改善に取り組む。</p> <p>② 児童生徒一人一人に応じた指導を行うため、算数・数学におけるティームティーチングや習熟度別の授業を取り入れる。また、よりきめ細かい支援が行えるよう、家庭・地域と連携し学習ボランティアの活用を促進する。</p> <p>③ 本市児童生徒の課題となっている家庭学習について、適切な課題を設定することや、宿題のチェック体制の確立等、具体的な方法を発信する。</p> <p>④ 授業支援として、学力向上支援員を派遣し、若手教員の授業力向上を図る。また、小学校へ理科支援員を巡回派遣し、理科室の整備、授業における観察・実験活動の充実及び教員の理科の授業力向上を図る。</p>
読書活動	<p>① 学校図書館巡回指導員や学校図書館ボランティア等と連携し、学校図書館運営や整備の支援を行う。</p> <p>② 学校図書館担当者の力量を高め、学校図書館活用の促進を図る。</p> <p>③ 日常的な読書活動を推進する。</p>

豊かな感性をもち、自律した子ども	
道徳教育	<p>① 新学習指導要領に基づき、各校における道徳教育全体計画を作成する。</p> <p>② 家庭や地域と連携しながら、学校教育活動全体を通じた、系統的な道徳教育を推進する。</p>
文化・芸術活動	<p>① 作品展の実施 幼児、児童生徒の豊かな感性や情操を育むために、作品展を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術作品展 令和2年11月14日～16日(中学校) 令和2年12月5日～7日(幼稚園・小学校) ・ 書写展 令和3年1月23日～25日(予定) ・ 科学作品展 令和2年9月12日～14日 <p>② 音楽会の開催 音楽を表現する喜びを味わい他校との交流を図るために、音楽会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校音楽会 令和2年度は中止 ・ 中学校音楽会 令和2年度は中止

健康への意識を高め、健やかな体をもつ子ども	
体力・運動能力の向上	<p>① 新体力テストの結果を活用した授業改善 新体力テストを実施し、その結果を分析し、結果をもとに支援を行う。</p>

学校、家庭と共に子どもを育む地域	
幼稚園・小学校・中学校 の一貫した学びの充実	① 中学校区において、交流会や合同研修会、公開授業を実施することにより、教職員の交流の促進を図る。

2 令和2年度 研究主題一覧

(1) 幼稚園

園名	研究主題
国府	自分らしさを発揮し、友だちと心通わせて遊ぶ子どもを目指して － 自尊感情から、友だちとのつながりへ －
加佐登	仲間と共に育ちあう － 心と体を動かし、遊びこむ子どもの姿から －
白子	触れて・感じて・考えて 自ら心と体を動かし、主体的に遊ぶ幼児 － 夢中になって遊びこめる環境の構成や教師の援助を考える －
旭が丘	子どもが生き生きと遊び 生活するための 教師の援助のあり方とは － 自分らしさを発揮し、自分で考え、動き出す力を育む －
稲生	心・からだ・はずむ！ － 幼児一人一人の育ちを支え、生きる力を育む教師のかかわりと環境の工夫 －
飯野	子どもが主体的に生活するための援助のあり方を探る － 一人一人の育ちに合わせた環境の工夫と教師の援助 －
箕田	共に育ち合う 箕田幼稚園 － 子どもの育ちを支えるために、教師ができることを探る －
玉垣	主体的に活動する子どもの育成 － 「道徳性・規範意識の芽生え」に視点をあてて －
神戸	気づき、試し、考えることを楽しむ子どもを育てる － 五感を使った直接体験や、自分らしく表現できる環境を通して －
栄	人とのかかわりの中で いきいきと遊びを楽しむ子どもをめざして － 教師の援助と環境構成を探る －
椿	休園

(2) 小学校

校名	研究主題	教科・領域
国府	ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する子どもをめざして － 子どもから出発する授業 －	社会科・生活科
庄野	自分の考えをもち、ともに高め合う子どもをめざして － 算数科の授業を通して －	算数科
加佐登	どの子も「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育	算数科
牧田	「意欲的に学び、生きる力を身につけていく子ども」 － 基礎学力の定着をはかりながら、言語活動を効果的に取り入れた授業づくり －	算数科
清和	伝えたいを実現する子ども － 目的と相手に合わせて －	国語科
石薬師	自他を認め、つながる子どもの育成 － 全ての授業に人権の視点を －	全領域
白子	「いきいきと学び合う子どもをめざして」	算数科
鼓ヶ浦	自分の考えをもち、なかまとともに高まろうとする子どもの育成 － 学び合う算数の授業づくりを通して －	算数科
旭が丘	地域を舞台に、感じ、考え、行動できる子の育成 － 各教科の連携を密にした生活科・総合的な学習の時間を通して －	生活科 総合的な学習の時間
桜島	自ら学び、なかまとともに学び合い、深め合う子の育成 － 子どもが見通しをもって粘り強く学習に取り組む授業づくり －	算数科
愛宕	自ら課題を見つけ自ら追究し続ける子どもの育成 － 地域の人々の生き方から学び、自分の生活に活かしていく姿を目指して －	生活科 総合的な学習の時間
稲生	自分の考えをもち、ともに高まろうとする子どもの育成 － 学び合い、深め合う授業を通して －	国語科
飯野	学び合いを通して、一人一人の意欲を高める授業づくり － 算数科を中心に －	算数科
明生	自分の考えをもって、伝え合う子どもをめざして － 身につけた知識や考え方を表現する －	算数科
河曲	考えることを楽しみ、学び続ける子の育成 － 一人ひとりが自分の考えを持ち、伝え合い、学び合う授業を通して －	算数科

一ノ宮	差別に気づき，差別をしない・させない子どもの育成 － 書くこと，綴ることを中心に －	生活科 総合的な学習の時間 国語科等
長 太	みんなで授業をつくる － 自分の考えをもち，自分の言葉で伝え合い，ともに学び続ける子 －	算数科
箕 田	学び合い，考えを豊かにしていく子どもの育成 － ICT を活用した授業づくり －	全領域
若 松	自ら考え，豊かな関わりの中でともに高め合う子の育成	算数科
玉 垣	考えることを楽しみ，学び続ける子の育成 － 数学的な見方・考え方のよさに気づく，わくわくのある授業づくりを通して －	算数科
神 戸	自ら考え，表現し，共に学び合う子の育成 － 一人ひとりの表現力を高める授業をめざして －	算数科
合 川	伝え合い かかわり合い 学び合い － 自分の考えや思いを表現する力の育成をめざして －	外国語科 外国語活動 教科・領域全般
天 名	思いや考えを伝え合い，ともに学びを深めていく子どもの育成 － 全教科・領域の言語活動を通して，表現力を育む －	全教科・全領域
栄	一人ひとりがもてる力を出し，つながり，心が響き合う授業づくり － 自分の思いを伝え，受け止めるための書く活動 －	国語科
郡 山	考えを伝え合い，ともに学び合う子の育成 － 主体的・対話的で深い学びをめざして －	国語科
鈴 西	「自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら判断して行動し，よりよい社会や人生を切り開いていく児童の育成を目指して」 － 異年齢集団による学習を通して －	総合的な学習の時間 生活科
椿	学び合いを通して，「わかった」「できた」が実感できる授業づくり	全教科
深伊沢	人とのかかわりを大切に，主体的に学び合う子どもの育成 － コミュニケーション力を高め，学びの深まりをめざした授業 －	全教科・全領域
庄 内	進んでコミュニケーションを図り，自分の思いを伝え合う子 － 基礎基本の定着と，英語教育における指導法と評価の工夫を通して －	外国語科 外国語活動
井田川	聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして － 「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して －	算数科

(3) 中学校

校名	研究主題	領域
平田野	学び合いにおける自己の考えを「表現する力」の育成 － 生徒の自己実現を目指して －	全領域
創徳	一人ひとりの学びを保障する － わかる授業づくりと学習の定着に向けた取組を通して －	全教科・全領域
白鳥	「主体的・対話的で、深い学びを実現する授業を目指して」 － ICT機器を活用した授業の実践を通して －	全教科・全領域
神戸	確かな学力を育み、ともに学び、高め合う子どもの育成	全領域
大木	自ら学び続け、つながり合う生徒の育成 － 聴き合う・深め合う授業実践を通して －	全教科
千代崎	互いに高め合い、明日も笑顔で来なくなる学校の創造	全領域
白子	互いに認め合い、ともに学び、ともに生きる生徒の育成	全教科及び 総合的な学習の時間
鼓ヶ浦	支え合い、高め合い、未来に向かって学び続ける生徒の育成 － 「聴き合う関係」を大切にした対話的で深い学びの創造と キャリア教育の充実を通して －	全教科・全領域
天栄	つながりを大切にした学校活動の実践 － 主体的に取り組む生徒の育成をめざして －	全教科・全領域
鈴峰	「生徒の自己効力感を育てるための指導の工夫」 － わかる授業と互いにつながりあう取り組みを通して －	全教科 授業を中心とした すべての教育活動

3 研究委託校(園)

(1) 鈴鹿市教育研究会研究委託校(園)・研究指定校(園)

① 令和元・2年度 [令和2年度発表校(園)]

	校(園)名	研 究 主 題	教 科 領 域	発 表 日
幼稚園	栄	人とのかかわりの中で いきいきと遊びを楽しむ子どもをめざして － 教師の援助と環境構成を探る －	全領域	10月30日 (金)
小学校	神戸	自ら考え、表現し、共に学び合う子の育成 － 一人ひとりの表現力を高める授業をめざして －	算数科	10月23日 (金)
	栄	一人ひとりがもてる力を出し、つながり、心が響き合う授業づくり － 自分の思いを伝え、受け止めるための書く活動 －	国語科	10月8日 (木)
中学校	鼓ヶ浦	支え合い、高め合い、未来に向かって学び続ける生徒の育成 － 「聴き合う関係」を大切にした対話的で深い学びの創造と キャリア教育の充実を通して －	全教科	11月20日 (金)

② 令和2・3年度 [令和3年度発表校(園)]

	校(園)名	研 究 主 題	教 科 領 域
幼稚園	神戸	気づき、試し、考えることを楽しむ子どもを育てる － 五感を使った直接体験や、自分らしく表現できる環境を通して －	全領域
小学校	河曲	考えることを楽しみ、学び続ける子の育成 － 一人ひとりが自分の考えを持ち、伝え合い、学び合う授業を通して －	算数科
	天名	思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めていく子どもの育成 － 全教科、領域の言語活動を通して、表現力を育む －	全教科 全領域
幼稚園	天栄	つながりを大切にした学校活動の実践 － 主体的に取り組む生徒の育成をめざして －	全教科 全領域

(2) 文部科学省・三重県教育委員会研究委託校

名 称	指定年度	校 名
令和2年度地域と学校の連携・協働体制構築事業	令和2年度	全小中学校
人権教育総合推進地域事業	令和元・2年度	白子中学校区

4 特別支援教育

障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。

また、全ての子どもたちが、地域で共に生活し、共に学ぶ、より包括的な教育としての「インクルーシブ教育」の考えのもと、関係機関が連携を図りながら、その時点で最も適切な指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することにより、就学前から卒業までの途切れのない総合的な支援の充実を図る。

さらに、子どもがあらゆる教育の場で、一貫した適切な指導や支援を受けられ、子どもとともに保護者が総合的な相談・支援を受けられるよう、教育環境の整備の充実を図る。

(1) 各学校における特別支援教育を行うための体制整備

① 特別支援教育に関する校内支援委員会の設置

校長のリーダーシップのもと、教頭、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、対象児童生徒の特別支援学級の担任、交流学級の学級担任、支援員、介助員等で構成し、「すずかっ子支援ファイル」を活用しながら、対象児童生徒の実態把握や支援方策の検討等を行う。

また、学校が組織として機能するよう多様な機会をとらえて情報共有を行う。

② 「すずかっ子支援ファイル」の作成と活用

特別な支援を必要とする子どもたちに対して、途切れのない支援を推進するため、「すずかっ子支援ファイル」の作成とその有効活用を進める。

「すずかっ子支援ファイル」は「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」などから構成し、成長の経過や支援内容等を記録することにより、一貫した継続的な支援を図るため、円滑かつ確実な引継ぎに活用する。今後は、様々な関係者からの意見を参考に支援ファイルの見直しを進めていく。



③ 特別支援教育コーディネーターの活用

特別支援教育を推進するために、保護者や、校内職員や、関係機関との連携の役割を担う、特別支援教育コーディネーターを各校が指名している。

④ 教員の専門性の向上

特別な支援を必要とする幼児児童生徒への教育支援のあり方についてや、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任等をはじめ校内全体の資質向上のための

研修等を開催し、教員の専門性の向上を図る。

また、各校から市や県が主催する研修講座へ積極的に参加し、その内容を校内でフィードバックすることで、教員の特別支援教育への理解を深める。

(2) 教育委員会における支援

① 特別支援学級の現状

本年度、小学校では知的障がい学級 42、自閉症・情緒障がい学級 26、肢体不自由学級 7、弱視学級 1、難聴学級で 3、計 79 学級、中学校では知的障がい学級 13、自閉症・情緒障がい学級 10、肢体不自由学級 4、弱視学級 1、難聴学級 1 で計 29 学級を設置している。

② 通級指導教室の現状

児童生徒の在籍校や専門機関との連携のもと、それぞれのニーズに応じて、個別指導や保護者との相談等を行う。本年度は、言語通級指導教室（3校）、難聴通級指導教室（1校）、発達障がい等通級指導教室（3校）を開設している。

③ 「特別支援教育コーディネーター会議」の開催

保育所、幼稚園及び学校による「特別支援教育コーディネーター会議」を開催し、学校（幼稚園・保育所）が抱える問題や現状を出し合いながら、よりよい学校（幼稚園・保育所）内の支援体制の在り方を検討・研修する。

④ 「特別支援教育プロジェクト会議」の開催

教育委員会事務局と子ども家庭支援課、小中学校長の代表者及び、アドバイザーとして大学教授が参加する特別支援教育プロジェクト会議で特別支援教育に係る課題や改善方法を検討し、今後の特別支援教育の方向性を示す。

⑤ 特別支援学校のセンター的機能の活用

一人ひとりの子どもたちに合わせた適切な支援を行うために、県立特別支援学校が実施している教育相談等を積極的に活用する。

(3) 子ども政策部における支援

① 5歳児健診や健診後のフォローの実施

市内全ての満5歳児を対象に、集団適応に課題を抱える児童の早期発見、早期支援のための健診を実施する。健診後は、在籍する幼稚園・保育所（園）や学校を訪問し、健診後フォローや就学後フォローを実施する。

② 「引継ぎ支援会議」の開催及び「引継ぎフォロー」の実施

在宅（発達支援事業所への通所児童含む）から幼稚園・保育所（園）へ、在宅や幼稚園・保育所（園）から小学校へ、小学校から中学校へなど、在籍機関が変わる時に、保護者や関係機関が参加し、以前の支援を引き継いでいくための会議（「引継ぎ支援会

議)を実施する。また、「引継ぎ支援会議」を実施した子どもが就学・進学した学校を訪問し、支援のための観察を行い、「引継ぎフォロー」を実施する。

③ 保護者や児童への支援

子育ての悩み（発達障がいや行き渋りなどの悩み等）をもつ保護者同士で日頃の思いを話したり、情報交換をしたりする「子育てトーク」を開催し、保護者の悩みを共有し合うとともに、発達相談や臨床心理士によるカウンセリングを行う。

「すずっこスクエア」で、集団への馴染みにくさや苦手さなど、何らかの課題や心配をもつ児童と保護者の相談にのったり、児童の特性に応じたサポートをともに考えたりする。

④ 巡回相談の実施

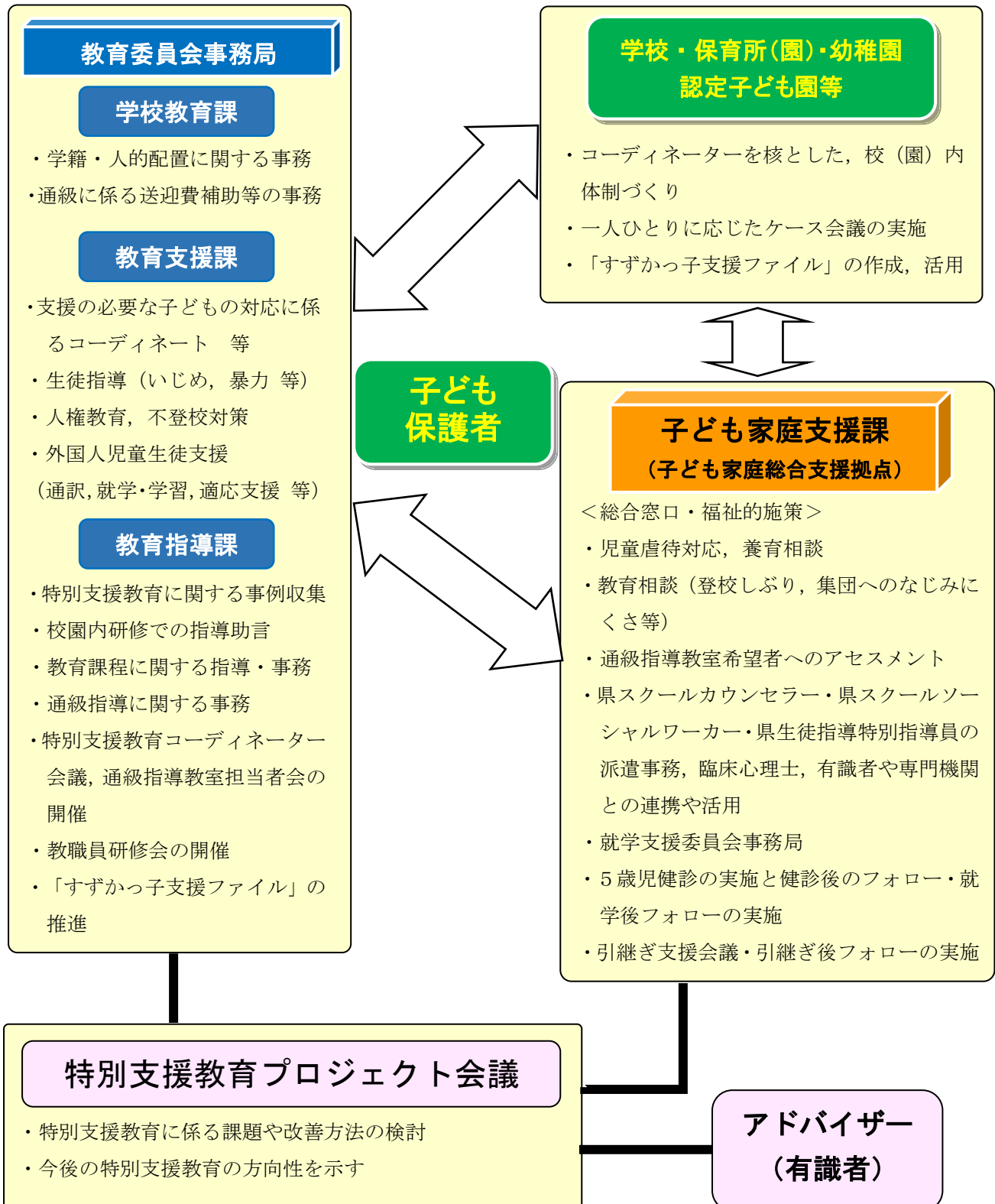
臨床心理士等を要請に応じて、学校、保育所（園）、幼稚園、認定子ども園等に派遣し、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒のアセスメントや指導内容・支援方法に関する助言等を行い、学校、保育所（園）、幼稚園、認定子ども園等における特別支援教育の充実を図る。

⑤ 就学支援委員会

就学支援委員会は、支援を要する幼児児童生徒が小中学校等に就学・進学するにあたって、その能力や可能性を伸ばし、社会参加や自立を可能な限り実現するための適切な就学判定を行う。（就学支援委員会は、医師、児童福祉施設等職員、県立特別支援学校教員及び市内小中学校教員、指導主事、その他委員会が必要と認める機関の職員で構成される。）

教育委員会事務局と子ども政策部の連携による 特別支援教育の推進

配慮が必要な子どもたちへ、よりよく途切れのない支援をするために、教育委員会事務局と子ども政策部が連携して対応する。



5 教育研究・教職員研修

鈴鹿の教育の質の向上を支えるため、教育に関する調査研究、教材開発、教職員研修、教育情報の収集・提供等の事業を行う。

(1) 教育研究・教材開発

鈴鹿市の教育課題を把握・分析し、本市の重点教育課題に対応した研究を行う。

- ① 全国学力・学習状況調査を活用した調査・分析を行う。
- ② 研究協力校（平田野中学校）による実践研究・検証に取り組む。
- ③ 調査研究をもとに、教育実践に役立つ教育資料を作成し、各校に配付する。

【令和2年度調査研究テーマ】

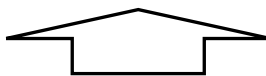
- ・ Chromebook を活用した学びの質の向上に係る調査研究
 - ・ 性の多様性と保健体育
- ④ 調査研究報告会を開催する。

(2) 教職員研修

これからの時代の教員に求められる資質・能力（「学びの専門家」としての教員、学び続ける教員、新たな課題や「チーム学校」に取り組める教員）の向上を図るための研修講座や教育講演会を開催する。

① 研修講座の編成方針

- 若手教員育成，専門研修（教科等研修，校内研修活性化研修，職務研修），テーマ別教育課題研修，管理職研修の4つの構成で研修講座を組む。
- 令和2年度から令和5年度までの4年間で，新学習指導要領の理解に基づいた実践を定着させる視点に立ち，研修講座を充実させる。



- ・ 鈴鹿市の教育課題を把握し，その中で特に重点となる教育課題に対応した研修を計画的に実施する。
- ・ 学校・園における研修の充実に結び付く研修を行う。
- ・ 若手教員育成のための研修を充実する。
- ・ 学校組織マネジメント研修を中核とした管理職研修を充実する。
- ・ 教育委員会事務局だけでなく，子ども政策部子ども家庭支援課等とも連携し，研修講座を企画していく。

② 研修体系

教職生活全体を通じて学び続ける教職員を継続的に支援するため、教職員がそれぞれのキャリアステージや職務に応じた、高度な専門知識、実践的指導力、人間力を高めることができる研修を実施する。

		R 2	浸透 R 3	R 4	定着 R 5
ステージ I ～ IV	若手教員育成	<ul style="list-style-type: none"> ●授業づくりの基礎基本 ●生徒指導 ●学級経営・仲間づくり ●教職員のコンプライアンス ●「チーム学校」の一員としての自覚 			
	専門研修	<p>【教科等研修】 新学習指導要領の理解に基づく授業改善</p> <hr/> <p>【校内研修活性化】 「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現に向けた校内研修の充実</p> <hr/> <p>【職務研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「チーム学校」の理念と理解 (ステージⅡ) ●「チーム学校」の理念に基づくマネジメント力の向上 (ステージⅢⅣ) 			
	テーマ別教育課題研修	<ul style="list-style-type: none"> ●英語教育 ●ICTを活用した教育 ●プログラミング教育 ●主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ●キャリア教育 ●読書教育 ●外国人児童生徒などへの日本語教育 ●道徳教育 ●情報モラル教育 ●体力運動能力の向上 ●人権教育 ●いじめ防止 ●特別支援教育 ●不登校対策 ●幼小中連携と一貫した教育 ●教職員のコンプライアンス 			
	管理職研修	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムマネジメント ●危機管理とリスク管理 ●教職員の働き方改革 ●メンタルヘルス 			

ライフステージ

I 基礎形成期（初任～教職経験 5 年次） II 伸長期（教職経験 6 年次～10 年次）

III 充実期（教職経験 11 年次～20 年次） IV 発展期（教職経験 21 年次以降）

③ 令和2年度 研修講座一覧

ライフステージ

- I 基礎形成期（初任～教職経験5年次）
- II 伸長期（教職経験6年次～10年次）
- III 充実期（教職経験11年次～20年次）
- IV 発展期（教職経験21年次以降）

形式

- A 講演・講義型
- B 参加・体験型
- C 実技・演習型
- D 動画視聴型

No	講座名	対象	校種	月	日	曜	講座概要	形式
----	-----	----	----	---	---	---	------	----

◆若手教員指導力向上研修…教職経験10年以下の若手教員の指導力向上をめざす研修

W-1	指導力向上① (授業づくり)	I II	小	中止			授業づくりの基礎・基本	A
W-2	指導力向上② (生徒指導)	I II	小中	夏季休業中			児童生徒に寄り添う生徒指導とは？	D
W-3	指導力向上③ (生徒指導)	I II	小中	1	18	月	学級経営について	A

◆専門研修…教科等の指導力の向上と職務、分掌等の機能の充実をめざす研修

【A 教科等研修】

SA-1	プログラミング教育	I II III	小中	延期 (冬季予定)			ロボットを活用したプログラミング教育 (授業展開 初級編)	未
SA-2	(小) 中学校英語	担当者全	小中	夏季休業中			確かな英語力を身に付けさせる！ 授業づくりのポイント3つ	D
SA-2	小(中) 学校英語	担当者全	小中	夏季休業中			「小学校外国語・外国語活動 きほんのき」 ～小学校教育のための外国語・外国語活動であるために～	D
SA-3	教材開発	I II III	小中	夏季休業中			思考ツールを使った考える授業づくり	D
SA-4	小中学校社会	I II III	小中	夏季休業中			主体的・対話的で深い学びにつながる社会の授業づくり	D
SA-5	小中学校国語	I II III	小中	夏季休業中			新学習指導要領を踏まえた国語の授業づくり	D
SA-6	幼児教育・幼小接続	全	幼小	中止			幼小の円滑な接続のあり方について 子どもの育ちと学びをつなぐ幼小の接続	A
SA-7	道徳	全	小中	中止			考え、議論する道徳授業づくり	A
SA-8	学校図書館活用	担当者・全	小中	夏季休業中			学校図書館を生かした授業づくり ～今だからできる学校図書館活用術～	D
SA-9	体育	I II III	小中	中止			安全な水泳指導のために	C

【B 校内研修活性化支援講座】

SB-1	校内研修活性化	研修長 III IV	小中	夏季休業中			研修で育むチーム力	D
------	---------	------------	----	-------	--	--	-----------	---

【C 職務研修】

SC-1	日本語教育	担当者全	小中	中止			※	A
SC-2	多文化共生	担当者全	小中	2	5	金	日本語教育実践フォーラム	A
SC-3	不登校対策	担当者全	小中	中止			※	A
SC-4	情報セキュリティ	担当者全	小中	夏季休業中			情報の取り扱いについて (教育政策課)	D

◆テーマ別特別研修…喫緊の教育課題に対応する教員の資質能力向上をめざす研修

T-1	学力向上・学校組織マネジメント	全	小中	夏季休業中			確かな学力を育む組織づくり	D
T-2	人権教育1	全	幼小中	9 9	11 18	金 金	部落史観の転換 ～教科書に見られる部落史の視点から～【前編】 部落史観の転換 ～教科書に見られる部落史の視点から～【後編】	A
T-3	人権教育2	全	幼小中	中止			※	A
T-7	アンガーマネジメント	小中	幼小中	6月12日(金) 夏季休業中			子どもたちの健全な成長のために。感情の自己管理。	A D

・T-4～T-6（特別支援教育）、T-8（児童虐待防止）は、今年度は子ども家庭支援課主催で次のように実施。

T-4 ～ T-6	特別支援教育基礎研修会	全	幼小中他	5 5 6 6 6 6 6	18 25 1 8 15 22 29	月(午前/午後) 月(午前/午後) 月(午前/午後) 月(午前/午後) 月(午後) 月(午前/午後) 月(午前/午後) 月(午前/午後)	発達に課題のある子どもの支援について考える	A
	特別支援教育夏季研修会	全	幼小中他	8 8 8	3 17 24	月	多様な子供の支援についてケースを用いて考える	A
T-8	児童虐待防止研修会	全	幼小中	7	9	木	児童虐待の対応について	A

◆管理職研修…学校組織のマネジメント力向上をめざす研修

K-1	児童虐待防止	管理職	幼小中	中止			※	A
-----	--------	-----	-----	----	--	--	---	---

K-2	学力向上・ 学校組織マ ネジメント	管理職	小中	夏季休業中	確かな学力を育む組織づくり		D
K-3	幼児教育・幼 小接続	管理職	幼小	中止	※		A

※講座概要が決定する前に中止が決定した為、斜線とする。

◆学校経営連続講座…教育の動向を踏まえ、様々な教育課題に対応した学校づくりをめざす中堅教員及び教頭のための研修

G-1	学校経営 連続講座①	IV	小中	5	14	木	学校経営連続講座 第1回	A
G-2	学校経営 連続講座②	IV	小中	6	18	木	学校経営連続講座 第2回	A
G-3	学校経営 連続講座③	IV	小中	6	30	木	学校経営連続講座 第3回	A
G-4	学校経営 連続講座④	IV	小中	7	9	木	学校経営連続講座 第4回	A
G-5	学校経営 連続講座①	教頭	小中	5	22	金	学校経営連続講座 第1回	A
G-6	学校経営 連続講座②	教頭	小中	6	26	金	学校経営連続講座 第2回	A
G-7	学校経営 連続講座③	教頭	小中	7	3	金	学校経営連続講座 第3回	A
G-8	学校経営 連続講座④	教頭	小中	7	17	金	学校経営連続講座 第4回	A

④ 若手教員育成への支援

- 経験年数5年以下教員の指導力向上に向けて、指導・助言を行う。
- 若手教員を対象とした通信を発行し、学級指導や学習指導等の支援を行う。
- 公開授業研修会・学習会において、学級指導や授業力について助言する。

⑤ 教育講演会（鈴教研全員学習会）

- 元気が一番!子どもも先生も、学校も! - 俵原正仁(芦屋市立山手小学校校長)	全	動画視聴
---	---	------

⑥ 鈴鹿市教育研究会との連絡調整

(3) 教育情報の収集・提供

教育図書・資料等の充実と教育サービスの一層の向上を図り、市内教職員の教育活動を支援する。

- ① 教育委員会だより「遙か」を通じた教育における情報の提供
- ② 教育資料の収集・保存，教育図書の貸出
- ③ 研究発表会の情報の提供
- ④ 教材，指導方法の相談等